

地域振興推進費事業総括表

提出区分	整理番号	課題区分	事業名	事業概要	事業期間	備考
新規	1	B	コミュニティ放送等を活用した地域情報の発信事業	地域住民に伝えたい、地域住民が知りたい諏訪管内の現地機関等の施策・取組等の情報や災害・感染症等、地域住民の暮らしに影響の大きい事案の情報についてタイムリーに発信する。	R4.5～R5.3	
新規	2	C	信州まつもと空港発レンタカー利用促進キャンペーン事業	「信州まつもと空港の発展・国際化に向けた取組方針」に基づく航空路線の拡充等を見据え、観光・ビジネスなど空港利用者の潜在需要の掘り起こしを図り、空港を活用した誘客促進及び周辺地域での滞在時間の増加や消費拡大を推進する。	R4.4～R5.3	
新規	3	C	八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした総合的な振興方策の検討・展開	Withコロナ、Afterコロナ時代における八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした地域づくりを進めるため、地域のニーズや既に進められている取組の全体像を整理し、市町村、住民、企業・団体等とともに今後の方向性や取り組むべき方策を検討・共有し次期総合5か年計画(諏訪地域計画)に反映する。また、デジタル技術を活用して八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を発信することにより、滞在・周遊・体験型の観光地域づくりを推進する。	R4.4～R5.3	
新規	4	C	縄文トレイルサイクリングコース開発事業	日本遺産認定後の3年間は、文化庁の補助金を活用して、甲信縄文文化発信・活性化協議会において基盤整備を行ってきたが、事業の最終目標である「民間主導による、民間資本を活用した自立性のある事業展開」を達成するには、各構成団体による日本遺産のさらなる周知が必要となっている。そのため、サイクリングをはじめとするアウトドアを好む一方、縄文への関心が薄い層に博物館等を訪問してもらうことを目的とし、縄文をテーマとしたトレイルサイクリングコースを開発する。	R4.4～R5.3	
新規	5	C	日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のブランド力強化事業	日本遺産認定後の3年間は、文化庁の補助金を活用して、甲信縄文文化発信・活性化協議会において基盤整備を行ってきたが、事業の最終目標である「民間主導による、民間資本を活用した自立性のある事業展開」を達成するには、各構成団体による日本遺産のさらなる周知が必要となっている。そのため、令和3年度に、発信力が期待できる層である若者をターゲットとした新たな土偶、土器、黒曜石等の見せ方検討をした内容を令和4年度にイベントで具現化していく。	R4.5～R4.12	
新規	6	C	水辺の昆虫モニタリングと保全に向けた啓発事業	諏訪湖創生ビジョンの指標水生動物に位置付けられている絶滅危惧種のメガネサナエ(トンボ)のモニタリングにより、諏訪湖周辺での生息状況を把握するとともに、地域での啓発により、生態系保全、諏訪湖及び流入河川の環境保全に向けた意識を醸成する。	R4.5～R5.2	

新規	7	C	農産物関連イベント・直売所巡りスタンプラリー	新型コロナウイルスの影響などにより、諏訪地域の農畜産物の消費量が減っているため、その魅力を発信し、地産地消をより一層進める必要がある。そのため、夏期から秋期にかけ、管内の農畜産物関連イベントのほか、農産物直売所等の施設を巡るスタンプラリーを実施する。	R4.8～R4.11	
新規	8	C	ワカサギ資源に関する基礎調査	諏訪湖におけるワカサギの漁獲量及び採卵量が減少している。特に採卵量はR元/H27 12%、R2/H27 1%となっており、それに伴い遊漁船等による釣り客もR2/H27 53%と減少している。遡上前から遡上期における諏訪湖内のワカサギ資源量について調査することにより、採卵時期における正確な資源量を把握することで現状(危機感)の共有及び根拠に基づいた採卵に関する対策を検討することができる。	R4.10～R5.3	
新規	9	C	令和4年度諏訪湖カワアイサ対策生態調査事業	諏訪湖に飛来するカワアイサに対しては、水産資源を確保するため、追払い等の対策が実施される一方、希少な渡り鳥であり、保護を徹底すべきとの声が上がっている。諏訪湖におけるカワアイサについては、学術的な調査が行われておらず、正確な生態(行動、食性及び捕食量など)が不明確なまま、有効な対策を模索する状況が続いている。ワカサギに係る連絡会議において夜間に船を出した際に捕食音を聞いたとの情報もあるため、より正確な状況を把握し、有識者とも連携しながら対策を構築することが必要である。	R4.10～R5.3	
新規	10	C	サイクルツーリズム推進事業	国内ではロードバイク等による自転車旅の人气が高まっており、平成31年度には長野県自転車活用推進条例及び長野県自転車活用推進計画が策定され、県全域においてジャパンアルプスサイクリングプロジェクトの始動や、諏訪地域での諏訪湖周サイクリングロードの一部開通など、自転車を活用した観光振興のための各種施策が実施されている。一方で、サイクリングを目的とした観光客を諏訪地域へと誘客するためには、誘客の促進とともに受け入れ環境の整備を図る必要がある。	R4.6～R5.3	
新規	11	C	ユニバーサルツーリズム推進事業	ユニバーサルツーリズムを推進するため、事業者や地域トラベルサポーター等の関係機関が連携し、地域一体となった取組みを実施してきた。この取組みをさらに発展させていくためには、受け入れ先となる観光施設のハード及びソフト両面の受入体制の整備が必要であり、これら取組に意欲のある者に対して専門的知見を有するアドバイザーを派遣することにより、UT成功事例の創出を図る。	R4.10～R5.3	

新規	12	C	諏訪湖周自転車利用環境整備ガイドラインの広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪湖周サイクリングロードの整備について、県・市町で分担を決め、令和5年度の完成を目指し施工中である。 ・諏訪湖周自転車利用整備ガイドラインの内容について、諏訪湖周自転車活用推進協議会（R3年5月設立）で現在協議中であり、令和4年7月頃の完成を予定しているが、浸透させるためには関係者の協力を仰ぎ、積極的な情報発信を行う必要がある。そのため諏訪湖周自転車利用環境整備ガイドラインについて、パンフレット、チラシ等を作成し、広報活動を行う。 	R4.4～R5.3	
新規	13	A	おらほの子どもは、おらほで育てる～地域で育つ、里親養育推進・応援事業	<p>里親制度を周知啓発し、養育里親候補者の拡充を図るとともに、里親養育支援の仕組みづくりを通して、住民が力を合わせることで保護者の事情によらず子どもが引き続き地域で育つことができる”里親先進地域諏訪”を目指す。</p>	R3.9～R4.3	